

4. 新聞等に掲載された研究

解剖学第二講座 (Department of Anatomy II)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
分 部 哲 秋 講 師	日本人の起源究明	科学ニュース 誌「SCiAS」	'97.12.19	自然人類学分野における弥生人と 中国・江南地方出土古人骨との関係

衛生学講座 (Department of Preventive medicine & Hjalth promotion)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
齋 藤 寛 教 授	イタイイタイ病健康調査 から	読売新聞 (富 山版)	1997. 5. 31	環境庁による96年の富山県イタイ イタイ病発生地域住民検診の結果 が受診者本人にさえ知らされてい ないことに関連して、長崎大学齋 藤寛教授の「長崎県対馬のカドミ ウム汚染地域では県と長崎大学が 連携して長年検診を続けているが 結果は全て住民に還元され健康管 理に役立っている」というコメン トを紹介した。
齋 藤 寛 教 授	長崎でむし歯予防全国大 会	日本歯科新聞	1997.11.18	ハーシェル・ホロウィッツ (米)、 ジョン・スペンサー (豪)、キム・ ジョンペイ (韓)、境脩 (日)ら著 名な歯科公衆衛生学者によるパネ ルディスカッションに齋藤寛長崎 大学教授が座長となって「日本で むし歯予防のために水道水フッ素 添加を実現させるための討論」を したことを紹介した。
横 尾 美智代 教務職員	心の中の大火砕流	NHK長崎放 送局「ズーム アップ九州」	1997. 4. 20	1994年に実施した被災に対する認 識調査に参加した大野木場小学校 4年生児童 (当時) のその後の生 活を個別に追跡し、被災後の生活 環境の変化や認識の変化、彼らの 成長をレポートした。
横 尾 美智代 教務職員	心の中の大火砕流～大野 木場小学校卒業生の記録 ～	NHK衛星第 1放送 BS列島スペ シャル	1997. 7. 19	同上

公衆衛生学講座 (Public Health)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
永田 耕司	テクノストレスについて	新聞 労 連	987(3)1997	
永田 耕司	メンタルヘルスについて考える	長崎新聞社 社 報	149 (6)、 10 (1997)	

原爆後障害医療研究施設 放射線障害解析部門 放射線応答解析研究分野

(Atomic Bomb Disease Institute Radiation Effect Research Unit, Department of Radiation Biophysics)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
奥村 寛 教 授	遺伝子医療の拠点へ	長崎新聞	'97. 1. 15	原研が改組され、当部門は「放射線応答解析研究分野」として新しく発展していく。
奥村 寛 教 授	放射能の理解へ「Q & A」を発行	朝日新聞	'97. 5. 3	市民にわかりやすく放射能に関することを説明し、正しい知識を伝える努力をした。

原爆後障害医療研究施設 放射線障害解析部門 放射線疫学研究分野

(Atomic Bomb Disease Institute Department of Radiation Epidemiology)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
本田 純久 助 手	被爆52年なお心に傷	毎日新聞	97. 8. 3	被爆者の精神的健康度を調査した結果爆心に近い人ほど不安感をもつ割合が多いことがわかった。
		朝日新聞	97. 8. 3	
		朝日新聞	97. 8. 4	
		西日本新聞	97. 8. 6	
		長崎新聞	97. 8. 6	
本田 純久 助 手	こころの健康調査報告	長崎新聞	97. 11. 22	被爆者のこころの健康に関する調査を実施した。解析結果について被爆者に対して講演会を行った。被爆体験が悲惨なほどこころの健康度は低かった。

原爆後障害医療研究施設 分子医療部門 分子診断研究分野

(Atomic Bomb Disease Institute Molecular Medicine Unit, Department of Nature Medicine)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
山下俊一 教授	被ばく報告書出版へ	読売新聞	97.3.6	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一 教授	報告書を出版	長崎新聞	97.4.4	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一 教授	「チェ原発」被ばく影響調査へ	長崎新聞	97.4.13	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一 教授	旧ソ連最大の実験場 影響報告書を邦訳出版	朝日新聞	97.4.28	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一 教授	放射能の理解へ「Q&A」 を発行	朝日新聞	97.5.3	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一 教授	世界の被ばく者医療の拠 点めざし大幅に改組	朝日新聞	97.5.5	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一 教授	ロシア語版の教科書作り 進む	長崎新聞	97.5.12	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一 教授	長崎から世界へ	BHNジャーナル	97.7.1	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一 教授	ロシア語版「超音波診断 の教科書」	長崎新聞	97.11.27	国際ヒバクシャ医療協力

原爆後障害医療研究施設 国際放射線保健部門

(Atomic Bomb Disease Institute, Department of International Health and Radiation Research)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
セルゲイ ベルギン 客員教授	被ばくとがんの因果関係	朝日新聞	1997.7.18	チェルノブイリ被災者救済のため ベラルーシ共和国と共同研究

原爆後障害医療研究施設 資料収集保存部 資料調査室

(Atomic Bomb Disease Institute Division of Scientific Data Registry Biostatistics Section)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
三根真理子 助教授	放射能の理解へQ&Aを 発行	朝日新聞	97.5.3	放射能が人体に与える影響をわかりやすくまとめた「放射能Q&A」が発行された。
三根真理子 助教授	原研が公開セミナー	朝日新聞	97.8.3	一般市民に放射線の知識をつけてもらうための公開セミナーがあった。
三根真理子 助教授	こころの健康調査報告	長崎新聞	97.11.22	被爆者のこころの健康に関する調査を実施した。解析結果について被爆者に対して講演会を行った。被爆体験が悲惨なほどこころの健康度は低かった。

動物実験施設 (Laboratory Animal Center for Biomedical Research)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
佐藤 浩 助 教 授	人獣共通感染症	毎 日 新 聞	平成9年 5月11日	国立大学動物実験施設飼育中のサルにおいてヒトに危険なBウイルスを保有している可能性を明らかにして、動物実験の際の注意を社会的に喚起した

内科学第一講座 (First Department of Internal Medicine)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
長 瀧 重 信 名 誉 教 授 芦 澤 潔 人 助 手	甲状腺疾患ロシア語版教科書を作成	長 崎 新 聞	'97. 5. 12	甲状腺疾患の診断法などのロシア語版教科書を長崎大学医学部の第一内科、原研が共同で作成。ウクライナ、ベラルーシ、ロシアの医療機関に贈り喜ばれた。合計4刷発行の予定。
本 村 智 子 研 究 生	チェルノブイリ原発事故被害者検診に派遣	長 崎 新 聞	'97. 4. 13	当科の本村智子医師がチェルノブイリ原発事故被爆地に住民の検診体制確立や甲状腺がんと放射線の因果関係を調査するために、2年間の予定で現地に出発。活動拠点は、甲状腺がん多発地域のゴメリ。夫の雅彦氏もデータ処理などを現地とする予定。
長 瀧 重 信 名 誉 教 授 芦 澤 潔 人 助 手	超音波診断ロシア語版教科書出版	長 崎 新 聞	'97. 11. 27	ロシアの専門医に向け超音波診断装置の使い方などをロシア語で出版。執筆に長瀧重信名誉教授と山下俊一教授が当たった。

内科学第二講座 (Second Department of Internal Medicine)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
河 野 茂 教 授	よい菌悪い菌—食中毒(O157など)はなぜ起こるか	長 崎 新 聞	'97. 10. 29	腸管出血性大腸菌O-157の流行で、一般の人にも感染症が身近な存在となり、そこで感染症の成り立ちと食中毒がどのようにして発症するかを解説し、それに対する正しい認識と予防策を紹介した。

精神神経学講座 (Department of Neuropsychiatry)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
中根允文 教授	原爆被爆者のメンタル・ヘルス	朝日新聞 (大阪本社)	1997.08.03	原爆で家族や友人などを失った被爆者の精神的な影響などを調査し、不安からくう体の不調やうつ病など、被爆から52年たってもいえない心の傷に、「精神的な援助が必要」とカウンセリングの必要性を訴える
中根允文 教授	以下、同上	朝日新聞 (西部本社)	1997.08.03	以下、同上
中根允文 教授		朝日新聞 (大阪本社)	1997.08.04	
中根允文 教授		西日本新聞	1997.08.06	
中根允文 教授		長崎新聞	1997.08.06	
中根允文 教授		朝日新聞	1997.08.06	
中根允文 教授		朝日新聞	1997.08.09	
中根允文 教授		読売新聞	1997.08.08	
中根允文 教授		朝日新聞	1997.08.09	

外科学第二講座 (Department of Surgery II)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
兼松隆之 教授	生体肝移植	朝日新聞 毎日新聞 読売新聞 西日本新聞	1997. 8. 5	長崎県内初の生体肝移植手術
兼松隆之 教授	生体肝移植	読売新聞 西日本新聞 毎日新聞 長崎新聞	1997. 9. 26 1997. 9. 27 1997. 10. 1 1997. 10. 1	肝移植女児が術後30日で退院
兼松隆之 教授	人工肝臓	読売新聞 長崎新聞 朝日新聞	1997. 10. 17 1997. 10. 17 1997. 10. 25	ブタの肝細胞、人工肝臓に長崎大、臨床応用を申請
兼松隆之 教授	インフォームド・コンセント	毎日新聞	1997. 12. 6	理解できるまで説明を聞く治療法の選択権は患者に
兼松隆之 教授	生体肝移植	長崎新聞 読売新聞 毎日新聞	1997. 11. 13 1997. 11. 13 1997. 11. 14	長崎大学病院で2例目の生体肝移植手術
兼松隆之 教授	人工肝臓	読売新聞	1997. 12. 31	研究用ブタにウイルス人工肝臓用 臨床審議凍結

皮膚科学講座 (Department of Dermatology)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
片山一朗 教授	特集 アトピー性皮膚炎を考える：一般的治療法と新しい治療法	メディカル朝日 8月号:29-32	1997	アトピー性皮膚炎の正しい治療法を一般医師に解説
片山一朗 教授	特集 アトピー性皮膚炎を正しく治す：成人型はなぜ増えているのか	毎日ライフ 8月号:28-33	1997	アトピー性皮膚炎の正しい治療法を一般向けに解説
片山一朗 教授	ステロイド薬と皮膚	KBC 第932回 アレルギー 談話室	1997/ 8 /17	ステロイド軟膏の正しい使い方を一般向けに解説
片山一朗 教授	膠原病の皮膚症状	ラジオたんぱ 医学講座	1997/ 9 /18	膠原病の皮膚症状の意義について一般医師に解説
田中洋一 講師	成人型アトピー性皮膚炎	KBC 第943回 アレルギー 談話室	1997/11/ 2	現在、社会的にも問題になっている成人型アトピー性皮膚炎について、その特徴と増加の原因について解説した
渡辺雅久 講師	紫外線	K T N TVみゅーで	1997/ 4 /30	ゲストコメンテーター

脳神経外科学講座 (Neurosurgery)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
柴田尚武 教授	新しい脳外科手術	NHKテレビ 「NHKイブ ニングワイド ながさき」	'97.11.10	脳疾患に対する高度先進医療の普及
柴田尚武 教授	脳腫瘍手術をナビゲート する顕微鏡	長崎国際テレ ビ「NIBプ ラス1」	'97.12.10	同上

薬剤部 (Division of Hospital Pharmacy)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
市川正孝 教授	薬学教育における病院実 習応需可能な医療施設に 関する調査	薬事日報	1997.12.3	九州山口地区の病院を対象に、薬 学生病院実習の受け入れ状況を調 査した。